

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人 隆愛会
事業所名	賀寿園グループホーム愛
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽2814番地 (電話) 099-473-8186
自己評価作成日	平成30年10月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念に基づき、介護とは何か。認知症とは何か。と日々「気付き」と「振り返り」を心がけております。

認知症の方々、人生の先輩方と触れ合うことで、利用者様の歴史を知り、利用者様が何を望んでいるのかを「知る」こと。を念頭に日々の関わりを心がけております。

認知症の方の心境の変化と現実のズレに気付き、可能な限り、さり気なくズレの修正をできるように心がけております。

主人公が利用者様であること。「自己決定権の尊重」、「これまでの生活形態の継続」、「自立支援(残存能力の活用)」が施設生活の中で反映できる関わりを心がけております。

ご家族様や地域との関係については、家族会や会議等で適時情報の共有を行い、グループホームの日頃の生活・運営状況をお知らせしております。

私達は利用者様の「その人がその人らしく尊厳のある生活」実現を目指し、和顔愛語の信条の元、介護に携わっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体である特別養護老人ホームに併設された2ユニットのグループホームで、広い敷地内にはケアハウス・デイサービス・訪問介護事業所・居宅支援事業所などを併設し、法人行事での交流・緊急時の協力体制が構築している。
- ・法人理念に沿って事業所理念があり「和顔愛語」の精神が浸透され日常のケアに反映している。
- ・法人全体で地域との交流を図り、法人行事への地域住民の参加、地域行事での交流、災害時の緊急避難場所として地域に開放している。
- ・法人全体で職員の資質向上に取り組み、外部研修への参加や内部研修の充実を図り、資格取得に向けて受験費用や研修費用の補助などバックアップ体制が整っている。
- ・管理者は働きやすい環境づくりに努め、職員とのコミュニケーションを大切にし声かけや随時の個別面談で話しやすい環境を心がけ職員との良好な関係を築いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	隆愛会の営理念を念頭に、利用者様との関わり中で何が大切なのか、振り返りと気付きを行っている。その中でも信条である「和顔愛語」の精神を職員間で特に共有している。	法人理念に沿った事業所理念があり、事業所内に掲示するとともに会議等で振り返りを行い常に理念を意識したケアに努めている。「和顔愛語」の精神が浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様、ご家族様のご要望をお聞きし、個別的な支援ができるよう実践している。墓参り・散髪・買物等は入居者様が主体的にご要望を伝えることができるよう関りをもち、馴染みの人との触れ合い、場所へ一緒に向向いている。	志布志お釈迦祭り等の地域行事参加や法人行事である夏祭りや合同運動会での交流、体験学習やボランティアの受け入れ、地域の方々の面会、散歩時や毎日の買い出し時のあいさつや声かけなど日常的に交流がある。徘徊模擬訓練や地域ケア会議にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族会等で、認知症についての勉強会を実施。地域の方々に向けては認知症という言葉や症状について周知していただけるよう勉強会に参加している。ボランティア、学生の研修受け入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1度、定期開催している。施設の議題、市役所担当者・ご家族様・民生委員からのご意見を取り入れながら、サービスに反映できるように努めている。</p>	<p>会議では入居者状況・行事日程・研修報告等を行い、参加者から意見や提案・アドバイス・地域情報などが出されている。会議内容は会議録で共有しサービスに反映できるよう努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>法的な面・文章作成・日々のケアにおいて、その都度、電話連絡や相談をしている。施設の実情を運営推進会議や実地指導、その他の案件についても、担当者と連携を取り合っている。</p>	<p>運営推進会議での情報交換やホーム便りの配布、書類関係で出向いたり電話での相談、グループホーム連絡協議会などを通して連携をとっている。市主催の研修会や催し物へも積極的に参加し協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止においては「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を定期的開催。勉強会や身体拘束になり得る状況を見て、どのようなことが虐待となるか職員間で共通理解をもてるよう取り組み、身体拘束をすることによるデメリットを各職員に伝えている。</p>	<p>指針・マニュアルを基に、委員会が中心となり定期的に勉強会を開催している。事例検討を含め具体的な行為、身体拘束によるデメリットや虐待行為など職員間で共通認識を持ち、身体拘束ゼロを実践している。必要時には付き添いやドライブ・散歩など、気分転換を図るなど職員で連携して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	どのような内容が虐待となるか、マスコミで取り上げられていることを踏まえ、想定される場面において「虐待がおこる場面」の共通理解をもつよう取り組んでいる。ささいな面においてもその都度、潜在しがちな虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「権利擁護」とはどのようなものなのかということの研修に参加し、日々の関わりの中で「権利擁護」と「運営理念」がどのように関係しているのか随時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様とご家族に対し、説明会や文書・口頭で十分に説明し了解をいただいている。また、利用代金変更・介護保険改定時など、変更事項について説明会を実施し、ご理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年間行事にて家族会や意見交換会の実施。 他、毎月ご意見用紙を送付するなど機会を設け、面会等にいられたご家族様から要望があればできる範囲で対応している。 運営推進会議等でもご家族の相談を議題として取り上げることもある。	利用者からは日常会話の中から、家族からは毎月のお便り、年2回の家族会とアンケートで意見や要望を聞く機会を設けている。把握した意見や要望は職員会議において情報を共有しケアや運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の話の中の会話等での疑問点等を職員会議に反映し、運営に関する提案をする機会を設けている。日常の改善点、行事の反省、その他問題がある場合についても職員の意見を会議若しくは個々に聞いて運営に努めている。</p>	<p>申し送り時やユニット会議・職員会議等において意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見や提案は話し合い、ケアに反映させている。管理者は必要時、随時面談を行うなど意見や提案が出しやすい環境づくりに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>提言・自己申告票を作成し、職員の意見・要望等を面談など行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理職を通じて、経験年数や理解度、日々の業務の取り組み内容を考慮して、勉強会やフォローを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内・外で職員研修等での交流を通じ、グループワークや演習を用い、資質向上に向けての勉強会、情報交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の面談を通じて、本人様の思いや困りごと、ご要望を聞き入れられるように努めている。また、認知症の方が生活環境が変わることへの配慮も含めて、ご家族様からの協力をいただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族様の困りごとや抱えてこられた悩みや不安、今後の希望等を聞かせていただいている。また、サービス導入後も、ご協力をいただけるように、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族様に入所前に困りごとやご要望の情報を聞き入れている。その情報をサービス開始と共に反映できるよう、不便さを少しでも解消できることに努めている。また他社会資源の活用を含めた支援がでないか検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中に「これまでの皆様の生き方、暮らしを大切に」とあるように、日々の生活の中で、利用者様のできること、できないこと、その時々的心情を知ること、暮らしの中で分かち合える関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時において、介護がこれで終わりではなく、これからが新たな始まりであること。その中で、自事業所と職員がご利用者の為に、ご家族様と共に支えさせていただく旨をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例え身体や認知機能が低下しても、本人に足りない機能、ご家族が準備できない設備を提供、協力することで、個別支援等でも馴染みや思い出のある場所に同行し、長期記憶に語りかけるように努めている。	馴染みの美容室に行ったり、自宅周辺へのドライブや馴染みの場所等へ出かけ、個別に支援している。面会に来やすい環境づくりに努め、友人が遊びに来訪されたり、手紙や年賀状などのお手伝い等、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	パーソンセンタードケアの理念を大切にしつつ、個々の性格に配慮しながら、日々を過ごせるよう配慮している。小規模ではあるが、集団生活でのメリット、デメリットについては、職員が利用者の調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了しても同じ地域に住まわれているご家族様が多い。その後のご本人やご家族様の様子等をお会いした時や、電話等でお聞きし、施設入所時と変わらない関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様との日々の関わりの中で、選択していただくような場面では自己決定を尊重するように努めている。意思疎通の表現が困難な方については生活歴を再アセスメントし、どのような生活を望んでいるのか、ズレの解消に努めている。	アセスメント情報や家族からの聞き取り、日常会話や表情・しぐさから思いや意向の把握に努めている。申し送りノートや職員会議・ユニット会議において情報を共有している。意思疎通の困難な利用者については、家族からの情報も聞き本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用に至るまでの経緯、生活歴を含めご家族や関係ある職種に情報を収集。これまでの生い立ち、これからの生活において大切であることをご家族様に了解をいただいた上で、サービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状況、認知症面における言動を経過記録表に記載している。排泄・水分量・食事量などの情報も同一の記録に記載している。特に注意すべき事項や伝達事項は別途申し送り欄を設け、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関り、ご家族様との関り、職員の気づきや振り返りを記録に残し、本人様の困りごとを少しでも解消できるような介護計画の作成に努めている。</p>	<p>本人・家族の意向、主治医や職員の意見を交えて現状に即した介護計画を作成している。本人・家族の意向、主治医や職員の意見を交えて現状に即した介護計画を作成している。利用者担当の職員が中心となり毎月のモニタリングを行っている。介護計画は6ヶ月から1年で見直しを行っている。担当者会議は家族の都合に合わせて、必要時には随時見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間での利用者様の対応方法を多くの職員にも周知できるように日々の様子を経過記録に記入している。言動、日々の様子や言動、得意な変化を一枚の記録用紙で多くの情報を記入できるよう工夫。記録からも些細な「気づきや振り返り」が出来るように、職員間で情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者のご家族様のこれまでの関係性や絆を無くさない為にも、ご利用者のご家族のご要望を情報収集。ハード面での介護機器の無料貸し出しや、送迎サービス。ソフト面においては、外出時におけるアドバイスをを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方やこれまで退所されたご利用者のご家族様との関係性を大切にし、施設の年間行事に参加していただいている。また関係性の輪を広げることで、介護に関する助言を頂いたり、情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望にそって入居以前からのかかりつけ医を利用いただいている。また緊急時においては自施設協力医療機関と協力することで、迅速な対応を行うえるように支援している。	協力医療機関が主治医となり、介護士である管理者が中心となり24時間医療連携が図られ、必要時の専門医受診など適切な医療を受けられるよう支援している。月1回の受診と専門医の受診は職員で対応し、家族へは担当職員が随時報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置。常勤の為、介護職と連携・協働している。受診支援や、日常の健康管理、医療が必要な際に必要な助言や指示、報告に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、本人様のこれまでの経過・状態変化を医療機関へ情報提供している。認知症による環境が変わることへの利用者様の心境の変化、支援、回復、退院に向けたアプローチを他職種、ご家族様と情報を交え支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期、看取りケアのに向けて看取りに関しての指針を作成している。その時の状況に応じ、都度医療機関やご家族様と連携を図り、事業所でできる事を具体的にメリット、デメリットを説明して個々の同意を得たい。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針・マニュアルがあり、契約時に利用者・家族へ説明し「意思確認書」で意向の確認を行い、共有している。ほとんどの利用者が医療機関を希望されており、事業所でできうる限りの支援をしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生における緊急マニュアルを見直し・作成・共有している。急変時を想定してAED等の使用訓練を実施。また、状態の不安定な方においては看護師に報告し、適切な指示が得られるよう連携を図っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人や事業所での単独での防災訓練を消防機関や近隣住民の協力のもと実施している。法人においても災害時の緊急避難場所として開放している。災害対応マニュアルをもとに職員間で意識の共有を図っている。</p>	<p>災害対応マニュアルを基に消防署の立ち合いで昼夜想定消防避難訓練を実施している。法人連絡網や事業所連絡網があり近隣住民の協力体制も整っている。救急講習やAEDの使い方の指導も受けている。緊急通報装置・スプリンクラー・消防設備等、業者が定期的に点検している。居室入り口の避難済みの名札の工夫もある。備蓄はホームで、水・おかゆ・味噌汁・乾麺等、用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様個々の尊厳を保持し、プライバシーを配慮した生活を提供できるように配慮。特に関わりの中で言動に注意し、通常業務内においても職員間で気付いたことなどをその都度、確認をとりあっている。	マニュアルがあり、内外研修を通して職員間の意識の統一を図っている。入居時に名前の呼び方を確認、個人情報の使用についても確認し同意を得ている。日常生活においてプライバシーに配慮した言動や対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事への参加・外出・入浴等、無理強いせず、本人の意思確認を都度行っている。言葉かけにも注意し、オープンクエスチョンを行うことで、本人の自己決定権を尊重できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の各個人の生活ペースを重視・把握するよう努めている。日々をご自身のペースで生活できるよう支援を心がけている。ただし、ズレが生じ、修正が必要な場合においては、認知症状に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択や整髪、洗面等の身だしなみについては、自分で行える方に対しては本人にお任せしている。本人の残存機能を考慮し、介助のみでしか行えない方に対してもできない箇所があれば支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材の下ごしらえを利用者様と行うようにしている。家事においても個々の能力や好みに応じて協力して頂いている。食事においては入居者様と職員は同じ内容であるが、利用者の趣向をお聞きしている。	毎日の食材の買い出しや下ごしらえ、台拭きなど個々の力量に応じて一緒に行っている。利用者と一緒に菜園で収穫した野菜や旬の食材を使用し献立を作成している。行事食や誕生日の献立、お好み焼きを一緒に作ったり、職員と一緒に会話しながら食事をするなど食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、隣接する協力特養に所属する管理栄養士より助言をいただきながら献立を作成。献立における助言をもらいながら、食事形態、水分量についても個々の能力、状態に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に顔や口腔体操を行っている。食後は口腔内の洗浄を勧め、義歯においては日々適せん消毒をし、清潔を保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをチェックし、個人に応じて支援を行っている。排泄の失敗がある方については、排泄の失敗の原因を探り、出来るだけ失敗を減らすよう努めている。個人の排泄のサインを見逃さないよう表情や行動の気付きを注視している。	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握を行い、個々の排泄サインを見逃さないよう、日中は基本的に声かけ誘導にてトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレやおむつ・パットの使用など個々に応じた対応で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の中で乳製品を取り入れ提供している。また日々の関りの中で、散歩・ラジオ体操等を取り入れ便秘解消に努め、便秘でお悩みの方は医療機関と連携をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	行事や職員の勤務ローテーションの関係により曜日、時間帯は午前か午後のどちらかに固定化している。入浴前後の支援方法についても本人様の意向にあった入浴支援の在り方について職員間で情報を共有している。	入浴は3日に1回、状況に応じて午前または午後から行っている。入浴剤を使用し浴槽にゆっくり入っている。必要時には二人介助や清拭・足浴などで対応している。拒否のある利用者についてはタイミングや時間差・声かけの工夫で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の個々の生活歴、生活習慣をお聞きし、居室にて安心した自身の時間を持てるように支援。昼夜、巡視を通じて、状態の変化への気付き、室温・湿度等に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携記録に、服薬の目的・副作用等が記入された用紙を綴じており、いつでも職員・ご家族が情報を把握できるように努めている。内服薬の変更、服薬後の経過等は、個別記録に記載し情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事や家事行為、レクなどを皆でする場合においても、なるべく役割を固定せず、これまでできてきた生活習慣に働きかけ、本人様が自身の役割と意欲的に思ってくださいよう支援している。また、その都度、感謝の言葉かけを忘れずに接している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>馴染みや思い出の場所への外出支援を行っている。利用者様個人の状況にもよるが、施設内だけでなく、計画を持って、ご家族様に相談。ご家族様との外食やお墓参り、地域へのイベントや市内のお祭りや行事、法人内での行事への参加等に参加していただくようご家族様、地域資源と協同している。</p>	<p>日常的には毎日の食材の買い出し、天気の良い日には散歩やドライブ、地域行事や法人行事、花見など年間計画に沿った外出など外出の機会が多い。家族の協力を得ながら墓参りや外食等外出や外泊の支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は行っていない。利用者様からの要望があれば、ご家族様に相談し、必要物品を持参していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自宅や家族に連絡をとりたいなどご希望がある方には電話機を設置している。手紙のご希望があれば、手紙を準備し、要望があれば本人の能力により、本人の言葉で代筆、また郵送（着払い）まで行う。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前はリビングスペースにあった畳を取っ払い、広い空間で動線を取りやすいように家具等を配置している。室温等は空調やカーテンにて過ごしやすく心地良い温度を心掛けている。共有スペースには季節の飾りや花を設け、季節を五感で感じていただけるように配慮している。	共用空間は広く、車いすが自由に動けるようバリアフリーで家具等の配置も工夫されている。天井が高く室温湿度が管理され天窓から自然の明かりが差し込み温かみを感じられる。季節の飾り付けや花が飾られそれぞれがイスやソファでゆっくりくつろげる環境となっている。トイレが4ヶ所あり使いやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士では馴染みの関係ができています方もおり、昼食後以外はリビングにて過ごされている方もいる。個別性を重視し、居室でもリビングでもくつろいで頂けるよう居場所と職員の対応も配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居日の前に、本人様やご家族様と相談しながらご自宅より、馴染みの物や思い出の品、使い慣れた家具等を持ってきていただくことで、自宅から施設へと環境が変わることへの不安に対し工夫している、	居室の窓は大きくエアコンやタンス・ベットが備え付けられている。それぞれが使い慣れたテーブルやイス・タンス・ぬいぐるみ・家族写真などを持ち込み、居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者お一人お一人の日常生活動作、予測されるリスクを考え、身体機能や「できないこと」に応じて環境整備し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない